

# 令和8年（2026年）の秋サケの資源状況について

令和8年6月24日

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構  
さけます・内水面水産試験場 さけます資源部

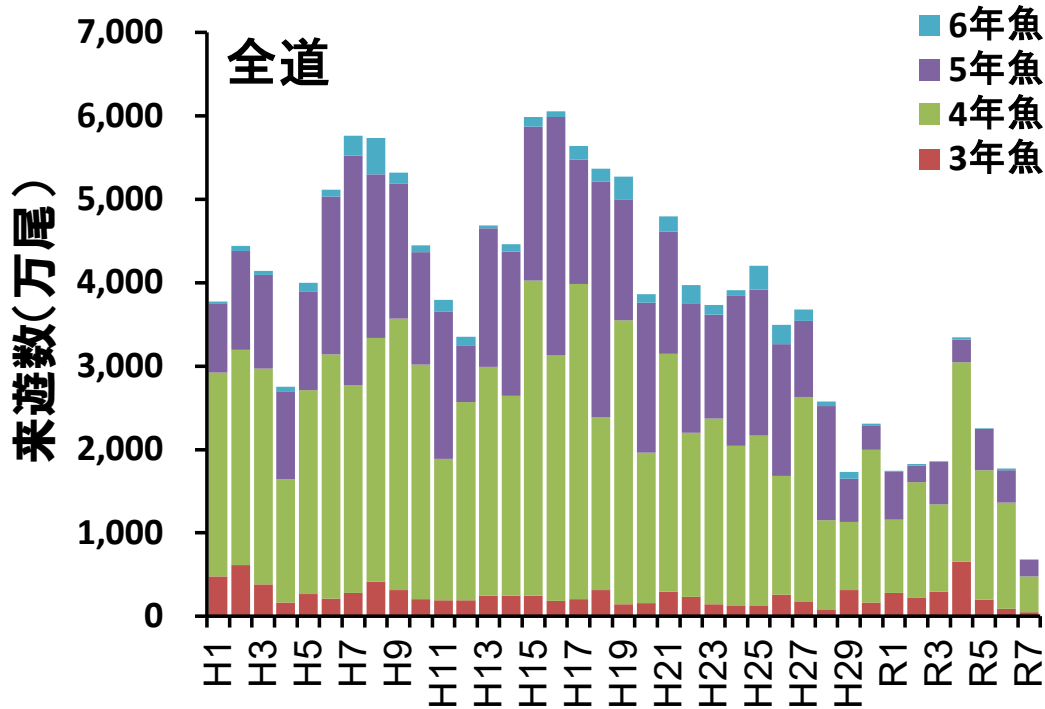


図1 北海道への秋サケの来遊数（年齢別）の推移

## 令和7年の北海道への秋サケ来遊の特徴

○令和7年（2025年）の全道への秋サケ来遊数（沿岸での漁獲数と河川での捕獲数の合計）は686万尾、前年比39%と大幅に減少し、平成以降では過去最低の水準となりました（図1）。予測に対する実績の値は60%で予測を大きく下回りました。

○年齢別来遊数について、4年魚（令和3年生）は432万尾で前年比34%に減少し、5年魚（令和2年生）は198万尾で平成以降では令和2年に次ぎ2番目に少ない値となりました。3年魚（令和4年生）は49万尾と過去最低の水準にまで減少しました。

○時期別では、前期が376万尾（前年対比56%）、中期が242万尾（前年対比26%）、後期が67万尾（前年対比41%）と、前期主体の来遊となりました。

○令和7年の平均目廻りは2.91kgと前年の2.96kgから減少し、近年では最も小型であった令和4年（2.83kg）に次いで低い水準となっています。

## 各海区への来遊状況

○令和7年の各海区への来遊数はえりも以西海区を除く全ての海区で前年を下回り、中でも根室海区での減少幅が大きくなりました（図2）。

○年齢別にみると来遊の主群である4年魚はえりも以西海区を除く全ての海区で前年を下回りました。5年魚はえりも以西・日本海区以外の海区で前年を下回りました。3年魚は全ての海区で前年を下回りました。

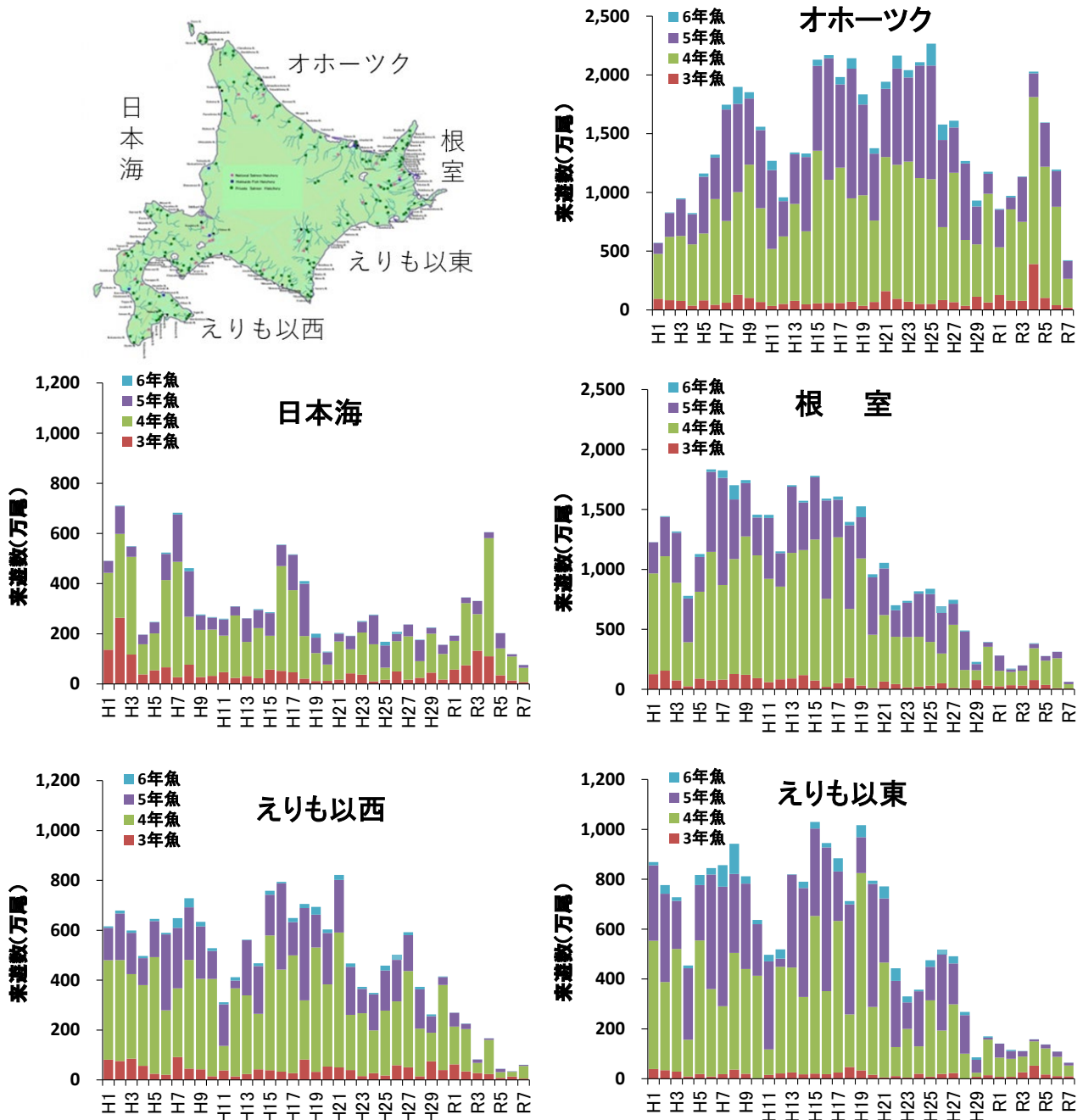


図2 各海区への秋サケの来遊数（年齢別）の推移

## 今年(令和8年)の来遊予測

○これまでと同様にシブリング法を基本に来遊数を予測しました。この手法では、前年の3年魚の来遊数から今年の4年魚の来遊数を、前年の4年魚の来遊数から今年の5年魚の来遊数を推定します(図3)。

○近年、急速な成熟年齢の低下(若齢化)が進んだことにより、予測精度が低下していることが明らかになりました。このため、令和3年以降は**若齢年級**のデータ(図3の○)だけを使い、また、本年は採用するデータを「**概ね直近5年級程度に限定**」して分析を行い、予測値を算出しています。

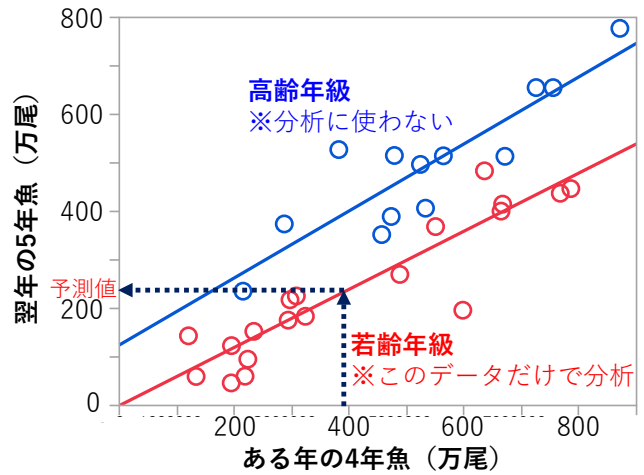


図3 シブリング法(例:A地区)

## 今年の予測値

令和8年(2026年)の全道への秋サケ来遊数は365万尾と予測しており、地区別の予測値は下表のとおりです。

海 区	地 区	令和8年 予測値(千尾)	令和7年 来遊数(千尾)	前年比(%)
オホーツク	東 部	774	2,081	37.2
	中 部	647	1,121	57.7
	西 部	687	1,021	67.2
	小 計	2,108	4,223	49.9
根 室	北 部	275	519	53.0
	南 部	56	119	47.2
	小 計	331	639	51.9
えりも以東	東 部	84	147	56.9
	西 部	481	495	97.1
	小 計	564	642	87.9
えりも以西	日 高	159	365	43.6
	胆 振	63	130	48.6
	噴火湾	21	90	23.1
	道 南	9	15	57.9
	小 計	251	600	41.9
日 本 海	北 部	212	357	59.4
	中 部	122	274	44.3
	南 部	56	125	44.8
	小 計	390	756	51.5
北 海 道	総 計	3,645	6,859	53.1